

最上川中流水防災意識社会再構築ビジョンの取組

～地域防災力向上を目標とした取り組み～

大蔵村烏川地区において、生活空間である「まち」の中に地区の洪水にかかる各種情報を標識として表示する『**まるごとまちごとハザードマップ**』の作成に取り組みました。

3回にわたるワーキングやまち歩きを通し、**浸水の範囲や深さ、安全な避難経路の確認**、それらが一目でわかるようなまるまち標識のデザイン、設置箇所などについて意見を交わし、実践を行いました。また住民の意見を反映させた**地区洪水ハザードマップ**を作成し公表することになりました。

ワーキングの開催概要

<第1回ワーキング(10月26日)>

- 浸水想定範囲(L1,L2)の説明
- 烏川地区のまるまち活動計画の説明

<第2回ワーキング(12月15日)>

- 地区ハザードマップの班別討議
- 標識設置箇所とデザインの検討

<第3回ワーキング(2月19日)>

- 標識設置箇所、標識デザイン案の確認
- 地区洪水ハザードマップ(案)の作成

活動のまとめ

- まるまち標識を仮設置し住民同士で確認することで、実際の浸水範囲や浸水深を身近に感じてもらう機会を作ることができた。
⇒ 『**水害意識の向上**』へ
- 過去の洪水痕跡水位を標識で示すことで、子供や孫へ伝えるきっかけを持ってもらうことができた。
⇒ 『**後世へ伝承する重要な素材**』へ
- 住民自らが挙げた意見を反映することで、その地域に特化し、実際に使ってもらえるツールの一つとなった。
⇒ 『**被災時の体験談や実際に不安となる要素を取り入れ実際に使ってもらえるハザードマップ**』へ
- 国・自治体・住民が一体となった活動となり、『**地域防災力向上**』のきっかけを作ることができた。

第1回 住民説明の開催



L1、L2の浸水想定範囲や浸水深を住民に説明

第2回 住民参加型による意見抽出方式のワーキングを開催



住民から頂いた意見を附箋に記述し、烏川地区に特化した内容を地図上へ展開

第3回 まち歩きの実施



実際にまるまち標識を貼り、標識デザインと貼る場所を再確認

地区ハザードマップの作成



住民意見を取り入れた、烏川地区独自のハザードマップを作成